

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

学校名	城西国際大学
設置者名	学校法人城西大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
経営情報学部	総合経営学科	夜・通信			30	30	13	
国際人文学部	国際文化学科	夜・通信		6	16	22	13	
	国際交流学科	夜・通信			14	20	13	
福祉総合学部	福祉総合学科	夜・通信			72	72	13	
	理学療法学科	夜・通信			60	60	13	
薬学部	医療薬学科	夜・通信			73	73	19	
メディア学部	メディア情報学科	夜・通信		4	85	89	13	
観光学部	観光学科	夜・通信			24	24	13	
環境社会学部	環境社会学科	夜・通信			36	36	13	
看護学部	看護学科	夜・通信			142	142	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://cm-j3.jiu.ac.jp/portal/top.do">https://cm-j3.jiu.ac.jp/portal/top.do</a> シラバス検索で 「実務経験のある教員」 で 絞込み
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	城西国際大学
設置者名	学校法人 城西大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<a href="https://www.josai.jp/about/director/">https://www.josai.jp/about/director/</a>
---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤 上原 明 理事長	大正製薬ホールディングス(株)代表取締役社長	2017.4.1 ～2021.3.31	理事長
非常勤 吉本 高志 理事	元独立行政法人大学入試センター理事長	2017.4.1 ～2021.3.31	大学経営全般に関する指導、助言及び管理、監督
非常勤 宮崎 公男 理事	元東京高裁判事	2017.4.1 ～2021.3.31	コンプライアンスに関する指導、助言及び管理、監督
非常勤 浅島 誠 理事	帝京大学学術顧問	2019.4.1 ～2023.3.31	学術研究に関する指導、助言及び管理、監督
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	学校法人城西大学
設置者名	城西国際大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>													
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)                  毎年2～3月に、開講科目担当教員に対し締め切り日を設定し、本学所定のフォームに従ってweb入力にて授業計画の作成をお願いしている。                  入力完了後、抜けはないか、フォームに沿って入力されているか教務委員を主体として授業計画(シラバス)チェックを行い、4月初旬に公開している。</p>													
授業計画書の公表方法	<a href="https://cm-j3.jiu.ac.jp/portal/top.do">https://cm-j3.jiu.ac.jp/portal/top.do</a>												
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>													
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)                  全学共通の指針として、履修申請、試験、成績発表について学生便覧の「履修の手引きと手続き」に掲載し、これを厳格に運用している。授業計画(シラバス)に記載された成績評価基準に基づき、試験・レポート等による総合評価に基づき、以下の基準に従い、単位を認定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・100点を満点として、60点以上をもって単位修得(合格)とする。</li> </ul> <p>その評価は次に従う</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th>評 価</th> <th>得点分布</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S</td> <td>100点～90点</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>89点～80点</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>79点～70点</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>69点～60点</td> </tr> <tr> <td>F</td> <td>59点以下(再試験受験可)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再試験における評価は、定期試験合格者の最低評価を上回らない。</li> </ul>		評 価	得点分布	S	100点～90点	A	89点～80点	B	79点～70点	C	69点～60点	F	59点以下(再試験受験可)
評 価	得点分布												
S	100点～90点												
A	89点～80点												
B	79点～70点												
C	69点～60点												
F	59点以下(再試験受験可)												

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)  成績評価を厳格に行いより教育効果を高めること、学生の学習意欲を触発し学習目標を明確化すること、成績評価基準を学外の評価基準に標準化し国際化を図ることを目的としてGPA制度を取り入れている。</p> <p>城西国際大学の成績評価は、</p> <table border="0"> <tr> <td>(合格)</td> <td>(不合格)</td> <td>(追・再試験)</td> </tr> <tr> <td>S: 100～90点</td> <td>(正規試験)</td> <td>D: 59点以下</td> </tr> <tr> <td>A: 089～80点</td> <td>F: 59点以下(再試験受験可)</td> <td>E: 未受験</td> </tr> <tr> <td>B: 079～70点</td> <td>T: 追試験受験可</td> <td></td> </tr> <tr> <td>C: 069～60点</td> <td>Z: 追・再試験の受験資格なし</td> <td></td> </tr> </table> <p>S・A・B・Cの評価に対して、それぞれ5・4・3・2点のGrade Pointを与え、Grade Pointに各科目毎の単位数を掛け合わせ、その総計数を総履修単位数で割ることにより、平均点(Grade Point Average)を算出し、単位修得とは別の尺度で、当該学生の成績評価を行う。</p> <p>Grade Point Averageは成績通知表及び成績証明書に記載している。</p> $\frac{(Sの単位数) \times 5 + (Aの単位数) \times 4 + (Bの単位数) \times 3 + (Cの単位数) \times 2}{総履修単位数}$		(合格)	(不合格)	(追・再試験)	S: 100～90点	(正規試験)	D: 59点以下	A: 089～80点	F: 59点以下(再試験受験可)	E: 未受験	B: 079～70点	T: 追試験受験可		C: 069～60点	Z: 追・再試験の受験資格なし	
(合格)	(不合格)	(追・再試験)														
S: 100～90点	(正規試験)	D: 59点以下														
A: 089～80点	F: 59点以下(再試験受験可)	E: 未受験														
B: 079～70点	T: 追試験受験可															
C: 069～60点	Z: 追・再試験の受験資格なし															
客観的な指標の算出方法の公表方法	<a href="https://www.jiu.ac.jp/files/user/visitors/pdf/20190607_gpa.pdf">https://www.jiu.ac.jp/files/user/visitors/pdf/20190607_gpa.pdf</a>															
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)  全ての学部において卒業に必要な単位数及びディプロマ・ポリシーを定めている。各学部において、卒業に係る学生の単位修得状況を基に作成された卒業判定資料を作成し、教授会で審議。その原案をもって、卒業判定会議で審議し、学長が決定している</p>																
卒業の認定に関する方針の公表方法	<a href="https://www.jiu.ac.jp/visitors/students/detail/id=4158">https://www.jiu.ac.jp/visitors/students/detail/id=4158</a>															

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	学校法人城西大学
設置者名	城西国際大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.josai.jp/about/kiso/pdf/kessan_2018.pdf">https://www.josai.jp/about/kiso/pdf/kessan_2018.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.josai.jp/about/kiso/pdf/kessan_2018.pdf">https://www.josai.jp/about/kiso/pdf/kessan_2018.pdf</a>
財産目録	<a href="https://www.josai.jp/about/kiso/pdf/zaisan_2018.pdf">https://www.josai.jp/about/kiso/pdf/zaisan_2018.pdf</a>
事業報告書	<a href="https://www.josai.jp/about/kiso/pdf/jigyou_2018.pdf">https://www.josai.jp/about/kiso/pdf/jigyou_2018.pdf</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.josai.jp/about/kiso/pdf/kansa_2018.pdf">https://www.josai.jp/about/kiso/pdf/kansa_2018.pdf</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://www.jiu.ac.jp/files/user/about/review/pdf/31-02.pdf">https://www.jiu.ac.jp/files/user/about/review/pdf/31-02.pdf</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="https://www.jiu.ac.jp/files/user/about/review/pdf/31-01.pdf">https://www.jiu.ac.jp/files/user/about/review/pdf/31-01.pdf</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 経営情報学部
教育研究上の目的 (公表方法： <a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=663">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=663</a> ) (概要) 経営情報学部は、グローバル化や情報通信技術の発展に即応する能力を有し、かつ企業や行政等の組織、あるいは国際社会・地域社会が抱える諸課題の解決に主体的に向き合い、他者と協働しながら判断・行動できる「国際的に有為なマネジメント力のある人材」を育成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： <a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=663">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=663</a> ) (概要) 経営情報学部は、以下に掲げる能力を有し、かつ所定の単位を修得した学生に、「学士(経営情報)」の学位を授与する。 1. 経営全般に関する幅広い知識と、一人ひとりの進路を踏まえた特定の専門分野についての深い知識・技能を身につけている。 2. 情報通信技術 (ICT) の活用を通じて「経営」領域で分析ができ、経営活動に資する能力を身につけている。 3. 企業、行政、教育現場等の諸課題に対して、経営資源である「ヒト・モノ・カネ・情報」を活用し、協働で改善策を提案することができる。 4. 「国際人」として求められる教養を培い、英語あるいはその他の外国語を学ぶことを通じて、価値観の異なる異文化の人々と意思疎通や相互理解に努めることができる。 5. 常に向上心と高い倫理観を以って社会の変化に適応でき、持続可能な社会に積極的に関与できるチャレンジ精神やリーダーシップを身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： <a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=663">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=663</a> ) 経営情報学部では、教育研究上の目的、及び学位授与方針に基づき、国際的に有為なマネジメント力のある人材を育成するため、以下に掲げる方針に則って、カリキュラム (教育課程) を編成する。 1. 学科共通科目群では、経済社会のグローバル化と情報化の発展に即応できる能力、及び多様な価値観を互いに認め合う等の人間形成の基盤となる能力を身につけるため、英語を中核とする語学系科目、情報リテラシー科目、及び一般教養科目を配置する。 2. キャリア形成科目群では、大学での学修に必要な能動的な学び、社会で求められる倫理観、社会人基礎力、及びキャリア形成に資する能力を身につけるため、ビジネスキャリア関連科目やインターンシップに関する科目を配置する。 3. 専門基礎科目群では、経営学関連科目を中核とする専門分野の基礎知識を身につけるため、マーケティング、経済学、会計学、情報科学、及び環境関連分野等に関わる総論的または基礎的な科目を配置する。 4. 専門科目群Ⅰでは、一人ひとりの学修目標や進路に関わる知識・技能を深めるため、専門性の高い経営学、マーケティング、経済学、会計学、情報科学、法律学、スポーツマネジメント学、スポーツ・健康科学、環境関連科目等、幅広い分野の専門科目を配置する。 5. 専門科目Ⅱでは、獲得した知識・技能・態度を統合し、主体的・協働的に諸課題に取り組む能力を高めるため、ゼミナールやプロジェクト研究等を配置する。 6. 専門科目群Ⅲでは、マネジメント力と専門知識・技能を併せ持つ教員 (保健体育科、社会科学、公民科) を育成するため、教職に関する科目を配置する。 学位授与方針、及び学生一人ひとりの進路に、より対応するため、2 年次より以下の 6 コ

<p>ースを設置する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバルビジネス・マーケティングコース(東金キャンパスおよび紀尾井町キャンパス)</li> <li>2. 会計ファイナンスコース(紀尾井町キャンパス)</li> <li>3. 公共マネジメントコース(東金キャンパス)</li> <li>4. スポーツマネジメントコース(東金キャンパス)</li> <li>5. 情報マネジメントコース(東金キャンパス)</li> <li>6. 情報・メディアマネジメントコース(紀尾井町キャンパス)</li> </ol>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：<a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=663">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=663</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>経営情報学部では、教育研究上の目的、学位授与方針、及び教育課程編成・実施方針を踏まえて、下記に掲げる人物を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営学及び情報科学分野等に関心を有し、その学修を通じて、将来、企業、行政、スポーツ・健康、情報、教育、環境分野等で活躍するという明確な目的意識をもって、大学での学びを継続することができる人</li> <li>2. 本学部の教育内容を理解するために必要な、高等学校卒業相当の基礎学力とコミュニケーション能力を有する人</li> <li>3. 本学部での学びを通じて、積極的に異文化との交流を図ろうとする意欲のある人</li> <li>4. 学生相互あるいは教員と共に協調し学び合うことのできる社会性のある人</li> </ol>

<p>学部等名 国際人文学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：<a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=665">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=665</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>国際人文学部は、語学力と国際的な教養、社会人に必要な知識とスキルを十分に身につけ、国際社会で活躍できる人材を育成する。</p> <p>国際文化学科 国際文化学科は、国際的な視野をもって語学力と異文化理解力に優れ、柔軟な発想と行動力を備えた人材を育成する。</p> <p>国際交流学科 国際交流学科は、実践的な語学力と国際交流のための知識とコミュニケーション能力を身につけた人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：<a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=665">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=665</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>国際文化学科 国際人文学部国際文化学科は、以下に掲げる能力を有し、かつ所定の単位を修得した学生に、学士(国際文化)の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解している。</li> <li>・世界の中の日本の姿を認識し、理解している。</li> <li>・自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について専門的な知識を有し、適切に理解している。</li> </ul> </li> </ol>

## 2. 汎用的技能

- ・一つ以上の外国語について、日常生活に必要な程度の運用能力を持っている。
- ・日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝達するための方法を知り、実践できる。
- ・必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。

## 3. 態度・志向性

- ・異文化社会に属する人々とコミュニケーションをはかり、相互理解に努めようとしている。
- ・柔軟な思考力と判断力を持って、多様な価値観や思考様式を持つ人々と協調・協働して行動しようとしている。

## 4. 総合的な学習経験と創造的思考力

- ・グローバル社会を多面的に捉え、そこから自らの見解を形成することができる。
- ・習得した教養や技能を生かして、グローバル社会における課題を発見し、解決に努めようとしている。

## 国際交流学科

国際人文学部国際交流学科は、以下に掲げる能力を有し、かつ所定の単位を修得した学生に、学士（国際交流）の学位を授与する。

### 1. 知識・理解

- ・英語と選択した第二外国語について、その言語と文化、社会を理解している。
- ・国際的な視野から、日本語と、日本の文化と社会を理解している。
- ・国際交流を積極的に進め、国際的な場で協働をおこなうための広い視野と教養を学んでいる。

### 2. 汎用的技能

- ・英語と選択した第二外国語を読み、書き、聞き、話すことによって、適切なコミュニケーションをはかることができる。
- ・日本語を読み、書き、聞き、話す能力を十分に持ち、国内及び国際的な場で日本語によって積極的なコミュニケーションをおこなうことができる。
- ・国際的な視野を持ち、国際交流を実践できる社会人として必要な基礎的な知識やスキルを身につけている。

### 3. 態度・志向性

- ・日本語と外国語のいずれによっても、自己を適切に表現し、相手と積極的にコミュニケーションを進めることができる。
- ・コミュニケーション能力と国際交流に関する知識を備え、かつ社会人として必要な倫理と協調性、リーダーシップをもって行動することができる。
- ・異なる言語・文化・社会に寛容であり、国際社会の発展に貢献することを目指して行動することができる。

### 4. 総合的な学習経験と創造的思考力

- ・コミュニケーション能力と言語・文化・社会に関する広範な教養と専門知識、国際交流の知識とスキルを活用し、課題を発見し、解決をはかる能力を身につけている。



## 教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=665>)

(概要)

### 国際文化学科

国際人文学部国際文化学科では、教育研究上の目的に基づき、グローバル人材を養成するため、以下に掲げる方針によりカリキュラム（教育課程）を編成する。

- ・グローバル社会における教養としての言語、専門分野の学修に必要な言語を学べるよう、学科共通科目群Ⅰ（語学）をおく。また、優れた英語力を有する学生を対象として、英語力をさらに高めるための特別な科目をおく。
- ・情報化社会で必要とされる知識や技能を習得できるよう、学科共通科目群Ⅱ（情報）をおく。
- ・グローバル化する文化や社会、コミュニケーションのあり方を多様な切り口から学び、国際化社会に生きる人間にとっての教養を身につけ、人文学を学ぶことの意義を明確にできるよう、学科共通科目群Ⅲ（教養）をおく。
- ・学生生活を充実させ、キャリア形成や生涯教育に資する主体的・自律的な学びを実現するため、初年次教育・ポートフォリオなどに関するキャリア形成科目群をおく。
- ・言語、文学、美術、歴史、社会、ジェンダー、比較文化など、専門分野について学ぶための基礎を身につけられるよう、専門基礎科目群をおく。
- ・日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパなど、世界の文化に関する専門知識を獲得し、活用することができるよう、専門科目群Ⅰ（国際文化）をおく。
- ・韓国および韓国語が使用される地域の言語・文化・社会についてより深く探究できるよう、専門科目群Ⅱ（韓国にかかわる言語・文化・社会）をおく。
- ・専門の学びの集大成をはかることができるよう、専門科目群Ⅲ（ゼミ研修・実践）をおく。
- ・専門の学びをより広めたり、卒業後の活動や仕事に結びつけたりしてキャリア形成ができるよう、専門科目群Ⅳ（言語・文化・社会関連）をおく。
- ・専門の学びに係る教育職員免許状や学芸員資格などの取得に必要な学びができるよう、専門科目群Ⅴ（教職・学芸員関連）をおく。
- ・比較の観点や学際的な視点を養い、文化をより深く理解できるよう、専門分野以外の科目を履修することを奨励し、自主選択科目枠を設ける。
- ・学修アセスメント・プランを提示し、ディプロマ・ポリシーが示す能力や学生の成長に伴う達成度を測定、評価する。

### 国際交流学科

国際人文学部国際交流学科では、教育研究上の目的に基づき、国内外の国際的な場で活躍する人材の養成のため、以下に掲げる方針によりカリキュラム（教育課程）を編成する。

- ・実践的な英語コミュニケーション能力を4年間通して総合的に習得するために、学科共通科目群Ⅰ（語学）を配置する。
- ・留学生・指定された帰国生徒等を対象とし、日本語コミュニケーション能力の向上をはかるために、学科共通科目群Ⅰ（語学）を配置する。優れた英語力を有する学生を対象として、英語力をさらに高めるための特別な科目を置く。
- ・情報化社会で必要な、コンピュータに関する知識とスキルを習得するために、学科共通科目群Ⅱ（情報）を置く。
- ・グローバル化する文化や社会、コミュニケーションのあり方を多様な切り口から学び、国際社会に生きる人間としての教養を身につけ、人文学を学ぶことの意義を明確にするために、学科共通科目群Ⅲ（教養）を置く。
- ・大学での学習に必要なスキルと社会人となるための基礎力を身につけ、学生生活を充実させ、キャリア形成や生涯教育に資する主体的・自律的な学びを実現するため、初年次教育・ポートフォリオなどに関するキャリア形成科目群を設置する。

- ・第二外国語と世界の文化について学ぶために専門基礎科目Ⅰ（世界の文化と言語）を置く。また、専門基礎科目群Ⅱ（国際教養関連）を配置し、国際社会・国際交流・国際関係・国際協力・国際コミュニケーションなどについて学ぶ専門教育の基礎とする。
- ・国際社会や国際関係について学び、異文化理解と国際交流、国際協力に必要な知識と実践力を身につけるために専門科目群Ⅰ（国際関係・国際交流）を置く。
- ・言語や異文化などを切り口に国際コミュニケーションについて学び、英語・日本語とその言語教育に関わる専門的な知識・スキルとコミュニケーション能力を身につけるために、専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）を置く。
- ・より高度な英語力を実践的に身につけるために、専門科目群Ⅲ（英語プロジェクト）を置く。
- ・演習および研修・インターンシップを通して、専門的な知識を学び、その実践と発展を図るために専門科目群Ⅳ（ゼミ研修・実践）を置く。
- ・教職課程で学ぶ学生のために、専門科目群Ⅴ（教職関連）を配置する。
- ・多様な学びを実現するために、学科として、教職・学芸員課程、および日本語教員副専攻を奨励する。また、学生が自らの学びを深めるために、自主選択科目枠を設ける。
- ・学生が学修成果を自覚し、ディプロマ・ポリシーに示す能力の達成度を意識・評価し、自らの成長につなげるために学修アセスメントに関連するプログラムを実施する。

#### 入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=665>）

（概要）

##### 国際文化学科

- ・高等学校までに学習する各教科について高等学校卒業相当の知識を有している。
- ・自身の思考や意見をわかりやすくまとめ、伝えることができる。
- ・必要な情報を適切な方法で収集・選別し、活用することができる。
- ・日本及び世界の文化、社会、政治、経済に強い関心を持ち、グローバル社会で、異なる・文化背景をもつ人々との共生を目指している。
- ・さまざまな言語を身につけ、情報発信・処理の能力を養い、世界の人々とコミュニケーションをはかりたいと思っている。
- ・学習意欲を持ち、論理的な思考力、問題解決能力を身につける熱意がある。

##### 国際交流学科

- ・高等学校までに学習する各教科について高等学校卒業相当の知識を有している。
- ・自身の思考や意見を日本語でわかりやすくまとめ、伝えることができる。
- ・必要な情報を適切な方法で収集・選別し、活用することができる。
- ・英語で基礎的なコミュニケーションを行うことができる。
- ・英語に興味を持ち、英語力を高めたいという意欲をもっている。
- ・積極的に周囲の人とコミュニケーションを取り、コミュニケーション能力を高めることに熱意がある。
- ・入学後、海外留学など海外でのプログラムに積極的に参加したいと考えている。
- ・将来、国内・国外を問わず、国際的な場で活躍したいと考えている。

学部等名 福祉総合学部
<p>教育研究上の目的  (公表方法：<a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=667">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=667</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>福祉総合学部  福祉総合学部は、国際的・地域的視点から福祉・医療の問題に関心を持ち、自己の専門性の向上に向けて探求できる人材を育成する。</p> <p>福祉総合学科  福祉総合学科は、持続可能な福祉社会の実現を目指して、社会環境の変化に対応し、様々な問題の解決に貢献できる福祉人材を育成する。</p> <p>理学療法学科  理学療法学科は、国際的視野を持ちながら、科学的知見に基づく新しい時代の理学療法学を目指し、専門職の学問的内容に見識を有する人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針  (公表方法：<a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=667">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=667</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>福祉総合学部は、以下に掲げる能力を有し、かつ所定の単位を修得した学生に、福祉総合学科は学士（福祉総合）、理学療法学科は学士（理学療法学）の学位を授与する。</p> <p>福祉総合学科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての人々の福祉の増進を目指し、高い倫理性と人権意識を持ち、多様な価値観を尊重できる。</li> <li>・福祉・介護・保育の現状を理解し、課題を自ら探求して、専門的な知識や技能を主体的に活用できる。</li> <li>・国際的・地域的な視野に立ち、国境や文化の境を越えて共感できる能力を有し、孤立や排除のない社会づくりに貢献できる。</li> </ul> <p>以上、福祉総合学科のディプロマ・ポリシーを実現するために、各コースはより具体的な学位授与の方針として以下掲げる。</p> <p>ソーシャルサービスコース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルサービスに必要な対象者理解・専門的な知識・技術を習得し、多様化するニーズに対応して人と環境とを包括的に捉えた支援ができる。</li> <li>・社会環境を理解し、課題を自ら探求してその解決をはかることができる。</li> <li>・国際的な視野に立ち、孤立や排除のない地域社会づくりに貢献できる。</li> </ul> <p>福祉心理コース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉の専門的知識・技術を習得し、人権を尊重し、多様化するニーズに対応して、生活の質の維持、相談援助などを実践できる。</li> <li>・精神障害者をめぐる現状について理解を深め、その課題を発見し、自ら解決を図ることができる。</li> <li>・国際社会における精神保健福祉の増進、その向上に貢献できる。</li> </ul> <p>介護福祉コース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者や障害を持つ人々への生活支援をはじめ、認知症のケアなど多様化する介護ニーズに対応できる専門的知識・技術を身につけ、根拠に基づいた介護を実践できる。</li> </ul>

- ・国際的な視野に立ち、支援を必要とする人々の人権を尊重した介護が実践できる。
- ・高い職業倫理と豊かな人間性を持ち、支援を必要とする人々の様々なニーズを理解し、多職種によるチームアプローチが実践できる。

#### 子ども福祉コース

- ・子どもの育ちを支える専門的知識・技術を修得し、遊びを通じた発達の援助が実践できる。
- ・子どもの教育や保育の課題を、国際的な視点で考えることができる。
- ・子どもの教育・保育だけでなく女性・家族が抱える福祉的課題について問題意識を持ち、ソーシャルワークを主体的に活用できる。

#### 理学療法学科

自らのもつ倫理観を涵養し、倫理的姿勢と行動をもって人の尊厳を守り、理学療法の知見を活用できる。

- ・科学的知見に基づき自己の理学療法専門性やケアの質の向上に向けて探究できる。
- ・福祉・看護・薬学の関連専門職の学問内容に見識を持ち協働して医療に従事できる。
- ・国際的素養を身につけるとともに、地域の健康と福祉に関心を持ち、国際社会や地域に貢献できる。

#### 教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=667>)

##### (概要)

福祉総合学部では、教育研究上の目的に基づき、福祉・医療・保健の専門性を有する人材を養成するため、学生一人ひとりの資格取得やキャリア目標に応じたカリキュラム（教育課程）を編成する。

#### 福祉総合学科

- ・地域社会・国際社会・企業社会に通用する資質と社会人基礎力（学士基盤力）を身につけるため、語学系科目、情報系科目等などの「学科共通科目群」を置く。
- ・福祉現場でのボランティア、実習や研修などを通じて、キャリア形成や生涯教育に資する主体的・自律的な学びを実現し、より深い福祉への理解と実践力を習得するため、初年次教育・ポートフォリオなどに関わる「基礎ゼミ」「地域ボランティア研修」「福祉疑似体験」「ゼミナールⅠ・Ⅱ」などの「キャリア形成科目群」を置く。
- ・専門分野の共通基盤（学士専門力）を体系的に身につけ、より広い視野で福祉を考えるため、学科の学びの基礎となる「ジェンダーと福祉社会」「人間学」「女性福祉論」などの「専門基礎科目群」を置く。
- ・実践力・総合力を身につけるために、専門分野におけるキャリア形成（学士専門力）を特徴づける「専門科目群」を置く。「専門科目群」は、「専門科目群Ⅰ（福祉関連）」、「専門科目群Ⅱ（教職関連）」に区分する。

各コースは「専門科目群Ⅰ（福祉関連）」として以下の科目を置く。

#### ソーシャルサービスコース

- ・ソーシャルサービスに必要な対象者理解・専門的知識・技術を習得するために、「心理学」「臨床心理学Ⅰ」「心理療法論」「相談援助の基礎と専門職」、「ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱ」「精神保健福祉援助技術総論」などソーシャルサービスに関する科目を置く。
- ・社会環境・多様化するニーズを理解し、人と環境を包括的に捉え、孤立や排除のない地域づくりに貢献するために、「現代社会と福祉」「地域福祉論」「生活保護論」「高齢者福祉論」「障がい者福祉論」「子ども家庭福祉論」「精神保健福祉論」「精神保健福祉制度論」など福祉に関する科目を置く。

- ・課題を自ら探求しその解決を図るために、「心理テスト演習」、「ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ」「ソーシャルワーク実習指導」「ソーシャルワーク実習」「精神保健福祉援助演習」「精神保健福祉援助実習指導」「精神保健福祉援助実習」など演習・実習に関する科目を置く。

#### 介護福祉コース

- ・多様化する介護ニーズに対応できる専門的知識・技術を身につけるために、「介護概論」「認知症の理解」「生活支援技術」「リハビリテーション論」「発達と老化の理解」「介護実習」など、介護を必要とする人々の理解の関わる科目を置く。
- ・支援を必要とする人々の人権を尊重した介護の実践ができるよう、「社会の理解」「現代社会と法制度」「社会学」「人間学」「生命と倫理」「生命科学」「人間関係とコミュニケーション」など、人権の理解とその尊重の方法に関わる科目を置く。
- ・チームアプローチの実践ができるよう、「リーダーシップ論」「福祉医療ケアシステム論」「くすりの知識」「医療福祉」など、保健・医療の知識と他専門職の役割、及び連携の方法に関わる科目を置く。

#### 子ども福祉コース

- ・子どもの育ちを支える専門的知識・技術を習得するために、「保育原理」「保育の心理学Ⅰ」「幼児教育原理」「乳児保育」「保育実習Ⅰ（保育所）」などの科目を置く。  
遊びを通じた発達の援助が実践できるよう、「保育内容演習（表現）」「保育の表現技術（音楽）」「幼児体育」「子ども観察法」「幼児教育研究（遊びの援助）」などの科目を置く。
- ・子どもの教育や保育の課題を国際的・地域的視点から考えることができるよう、「保育者論」「保育内容総論」「子どもの発達と相談」「地域における子育て支援」「Oral English for Children」などの科目を置く。
- ・子どもの教育・保育だけでなく女性・家族が抱える福祉的課題について問題意識を持ち、ソーシャルワークを主体的に活用できるよう、「相談援助演習」「現代社会と福祉」「子ども家庭福祉論」「子どもの権利と福祉」「家庭支援論」などの科目を置く。
- ・「専門科目群Ⅱ（教職関連科目）」は、福祉の視点を教育に活用し、多様な社会問題を主体的に考察した上でさまざまな立場から現代社会を教授できるよう、「教育心理学」「教職論」「福祉科教育法Ⅰ・Ⅱ」などの中学社会、高校公民、高校福祉の教員免許に関連した教職に関する科目を置く。
- ・学修アセスメント・プランを提示し、ディプロマ・ポリシーが示す能力や学生の成長に伴う達成度を測定、評価する。

#### 理学療法学科

- ・「学科共通科目群」は、学生の人間形成、人格形成の基盤となる科目、社会人として活動するための基盤となる知的活動や職業生活、社会生活において必要とされる知識・技術修得のための基礎的科目を配置する。
- ・「専門基礎科目群」は、“人体の構造と機能及び心身の発達”、“疾病と障害の成りたち及び回復過程の促進”、“保健医療福祉とリハビリテーションの理念”そして、“薬学・福祉・看護”を配置し、各学部との連携教育や学科共通科目群で学んだ基礎知識を発展させるための科目を配置する。
- ・「専門科目群」は、「専門科目群Ⅰ」「専門科目群Ⅱ」「専門科目群Ⅲ」に区分する。  
「専門科目群Ⅰ」では、“基礎理学療法学”の修得を目的とした科目を配置する。  
「専門科目群Ⅱ」では、“理学療法評価学”、“理学療法治療学”“地域理学療法学”を学ぶことを目的とした科目を配置する。
- ・「専門科目群Ⅲ」では、“臨床実習”を通じてその実践力を養い、キャリア形成を目的とした科目を配置する。

<p>入学者の受入れに関する方針  (公表方法：<a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=667">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=667</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>福祉総合学科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉・介護・保育の専門職として、地域に貢献し、人々の役に立ちたいと思っている人</li> <li>・人々の気持ちに寄り添い、地域の様々な福祉問題への具体的解決策を提案し、その解決を図ることに意欲を持っている人</li> <li>・国際的な視点から、異なる文化を理解し、互いに協力し、共生社会の実現に貢献したいと考えている人</li> </ul> <p>理学療法学科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の尊さを理解し、他者への思いやりをもてる人</li> <li>・異文化に理解を示し、好奇心にあふれチャレンジ精神旺盛な人</li> <li>・科学的素養と思考により学びを続けられる人</li> </ul>

<p>学部等名   メディア学部</p>
<p>教育研究上の目的  (公表方法：<a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=669">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=669</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>メディア学部は、「表現力」「コミュニケーション力」「コラボレーション力」を高め、複合的にビジネスコミュニケーションを展開できる創造的な人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針  (公表方法：<a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=669">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=669</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>メディア学部は、下記の能力を有し、かつ所定の単位を修得した者に「学士（メディア情報）」の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>・芸能・演劇・映像・サウンド・デザイン・情報・日本の伝統に関する体系的な知識と理解、先端的な技術・表現・文化を身につけている。</li> <li>・今後の時代と社会において、文化とメディアが果たす役割と創造する価値を理解し、新しい感動と価値を創るクリエイティブ産業の発展の方向性を自分なりにイメージできる。</li> </ul> </li> <li>2. 汎用的技術 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最先端な映像・サウンド・デザイン・照明・舞台・情報などのメディア関連の技術と表現を身につけている。</li> <li>・多様なメディアを使って、夢、感動、想い、価値、アイデアにカタチを与えて、「創る」「表現する」「伝える」などのクリエイティブ活動を実践できる。</li> <li>・デジタル技術とアートの表現力を活かし、仕事に新しい感動と価値を与えることができる。</li> <li>・分業と協業のもと、様々な連携プロジェクトを遂行するコラボレーション力を身につけている。</li> </ul> </li> </ol> <p>態度・志向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームワークの分業と協業のもと、芸能・演劇・映像・サウンド・デザイン・情報などの「文化的なものづくり」を成し遂げる。</li> <li>・主体性的にものを考え、論理的なフレームワークに基づいて物事を分析し、明確な意見や結論を導き、課題に対して提案を行い、失敗を恐れずに実行する。</li> <li>・時代と社会に関心をもち、表現とメディアを活かして新しいクリエイティブ産業を創造するビジネスマインドを持つ。</li> </ul>

<p>3. 総合的な学習経験と創造的思考力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・映像・メディアからエンタテインメントまで、様々な表現とメディアを総合的に活用し、新しい感動と価値を創るクリエイティブ産業を担う。</li> <li>・様々な課題に対して、メディアと表現を活かして、コミュニケーションとコラボレーションを通じて、問題解決と価値創造を成し遂げる。</li> <li>・産学連携、地域連携、国際連携などの連携プロジェクトに参加し、コラボレーション力を身につける。</li> <li>・グローバルな視野に立ち、時代と社会が必要とする価値のあり方を自分なりにイメージして、創造的に文化的な「ものづくり」や「コトづくり」を成し遂げることができる。</li> </ul> <p>(授与要件)</p> <p>本課程に4年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受け、研究成果を提示すること。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：<a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=669">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=669</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>メディア学部では、教育研究上の目的に基づき、下記の方針によりカリキュラム（教育課程）を編成する。</p> <p>「映像芸術コース」（東京紀尾井町にキャンパス）は、都心の立地を生かして産学連携のもと、映像・メディアからエンタテインメントまで、様々な表現とメディアを実践的に学び、「文化的なものづくり」を担うクリエイティブ人材を育成する。</p> <p>「クロスメディアコース」（千葉県東金キャンパス）は、地域と連携し、「情報」「映像」「デザイン」「サウンド」をクロスメディア的に活用し、ビジネスコミュニケーションを遂行できる人材を育成する。</p> <p>「概論」では俯瞰的・学際的な視野、「講義」では体系的な知識、「実習」では専門分野のスキルとデジタル技術、「実技」では身体性を活かした表現、「制作演習」では「文化的なものづくり」の経験、「産学連携・地域連携プロジェクト」では具体的なテーマや課題に対する創造的な問題解決を実践的に学ぶ。教育の目的に応じて多様な授業形態を設ける。2つのコースの共通科目として、「学科共通科目群」を設ける。</p> <p>「専門科目群」は、クロスメディア・映像表現・身体表現・ビジネス、サウンドの各分野に必要な専門的な知識と技術を修得するとともに、総合的な判断力や自ら研究することのできる能力を修得する。</p> <p>産学連携・地域連携・国際連携のもと、「演習・プロジェクト」では、PBL（Project-based Learning, Problem-based Learning）学習を通して、具体的なテーマや課題に対する創造的な問題解決を実践できる能力を身につけ、メディア業界で活躍できる人材育成を目指す。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：<a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=669">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=669</a>)</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報・映像・デザイン・サウンド・身体表現・表象ビジネスなどのメディア分野に興味と関心があり、自己の能力開発や技能の向上に努力できる人。</li> <li>・グループワークや身体表現によって表現力やコミュニケーション能力を身につけ、エンタテインメントやコンテンツビジネスなどのクリエイティブ産業で活躍する意欲のある人。</li> <li>・学習意欲があり、企画力、問題解決力、情報発信力などを身につける意志のある人。</li> <li>・表現力、コミュニケーション力、プレゼンテーションの能力を高め、クリエイティブな活動に積極的に取り組む意志のある人。</li> <li>・今後の仕事や生活において、表現やメディアを活かして「感動・経験・価値の創造」の重要性を理解している。</li> <li>・芸能・演劇・映像・サウンド・デザイン・情報などの「文化的なものづくり」やクリエイティブ産業に興味と関心をもっている。</li> <li>・芸能・演劇・映像・サウンド・デザイン・情報のいずれの分野において、一定なスキル</li> </ul>

や表現力をもっている。  
 ・身体やメディアによる表現やコミュニケーションの重要性を理解し、自分の能力やスキルの向上に努力できる。

学部等名 薬学部
教育研究上の目的 (公表方法： <a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=664">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=664</a> )
(概要) 薬学部は、超高齢化と国際化が進む日本社会において、質が高く安心・安全な医療サービスを提供し、健康的で豊かな生活を支援できる薬剤師を育成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： <a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=664">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=664</a> )
(概要) 薬学部医療薬学科では、下記のような能力を有し、かつ所定の単位を修得した学生に、学士(薬学)の学位を授与する。 ・薬剤師としての職能を発揮するために必要な知識・技能・態度を総合的に修得し、薬の専門知識を有する医療従事者として相応しい責任感と倫理観をもって、人々の生活を支えることができる。 ・地域で生活する人々が抱える健康に関わる問題に対して、合理的な判断に基づく解決策を提案し、他者と協力してその実践に努めることができる。 ・地域の保健・医療・福祉に貢献するために、生涯にわたり継続的に学び、成長する意欲と態度を有する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： <a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=664">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=664</a> )
(概要) ① 薬学部医療薬学科では、学部の目指す人材育成に基づき、薬剤師としての専門性を有する医療人を養成するため、以下のような方針に基づいてカリキュラム(教育課程)を編成する。 ・医療人に相応しい責任感や倫理観に基づく行動習慣を身につけ、豊かな人間性を育むために、入学直後より6年間を通じ、臨床マインドを醸成する科目群(ヒューマンイズム・社会と薬学・薬学臨床)を設置し、生涯学習につながる自己省察力を醸成するために、6年間を通じたポートフォリオ学習の実践や、キャリアファイルを活用することで、自らの学習意欲や成果を振り返る機会を提供する。 ・医療人として、地域社会や国際社会、企業社会等で求められる基礎的な力と教養を身につけるために、国際教育や教養科目に関わる科目群を設置(教養、情報、語学)する。 ・薬剤師資格の基盤となる専門性を身につけるために、薬学専門科目群(基礎薬学・衛生薬学・医療薬学・薬学臨床)を設置し、科目間や学年間のつながりを意識した学習を効果的にするため、全学年で総合演習並びに統合学習を設置する。 ・身につけた知識・技能・態度を統合し、専門職に求められる判断力や実践力を身につけるために、高学年次に実践的科目群(実務実習・卒業研究・特論演習)を設置する。 ・薬学的知識と技量を有する専門職として、視野を広げ、異なる価値観を受容し、他者を理解し協働する能力を身につけるため、専門職連携教育や国際教育に関わる科目群を設置する。 ②ディプロマ・ポリシーが示す能力や学生の成長に伴う達成度を以下のように測定、評価します。 ・専門知識の修得は、薬学専門科目群や総合演習、統合演習を通じて行う。 ・医療人としての意欲や態度は、臨床マインドを醸成する科目群や科目群とは独立した自



<p>記式評価票を用いて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職に求められる判断力や実践力は、実践的科目群で評価する。</li> <li>・学年進行に伴う学生一人ひとりの総合的評価は、各評価指標に加えポートフォリオ学習の成果やキャリアファイルを用いて行う。</li> </ul>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：<a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=664">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=664</a>)</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修学における基礎的な学力を身につけている人</li> <li>・健康や医療に興味を持ち、将来、医療人として社会貢献することに意欲的な人</li> <li>・自ら目標を掲げ、主体的に行動できる人</li> <li>・他者を理解し、積極的なコミュニケーションがはかれる人</li> <li>・問題探求心、学習意欲を持ち、生涯にわたり自己研鑽に励むことのできる人</li> </ul>

<p>学部等名 観光学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：<a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=666">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=666</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>観光学部は、社会が求める実践力と新たな価値を創造し実行するデザイン力を備え、これからの観光ビジネスや地域社会に貢献できる人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：<a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=666">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=666</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>観光学部は、以下に掲げる能力を有し、かつ所定の単位を修得した学生に、学士（観光学）の学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル社会での「異文化理解力」、「実践力」、「語学力」を修得し、高いコミュニケーション能力を有している。</li> <li>・ウェルネス（健やかな心身・地域共生・環境調和）という考え方を理解し、観光の新たな価値を考え、創りだす能力を有している。</li> <li>・観光学やホスピタリティ・マネジメントなどの基礎的知識を有し、「観光ビジネス」、「観光メディア」、「観光まちづくり・観光地経営」に係る専門知識を修得し、ビジネスマネジメント力や地域デザイン力を有している。</li> </ul>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：<a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=666">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=666</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>観光学部では、教育研究上の目的に基づく観光人材を育成するため、「観光ビジネス」、「観光メディア」及び「観光まちづくり・観光地経営」の三つのアプローチから、以下に掲げる方針によりカリキュラム（教育課程）を編成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルな社会人に求められる「異文化理解力」、「実践力」、「語学力」のスキルを育成するため、「キャリア形成演習」や国内外のインターンシップ・研修、英語、フランス語や中国語などの外国語科目、ホスピタリティ・マネジメント、コミュニケーション、ICTやリスクマネジメント等を培う科目を配置する。</li> <li>・裾野の広い観光分野の概略を身につけるため、観光学の導入教育を配置する。また、専門教育の導入として、「観光ビジネス」、「観光メディア」、「観光まちづくり・観光地経営」に係る専門知識の基礎を築く科目を配置する。</li> <li>・専門教育では、旅行業、ホテル・旅館や航空などの観光ビジネスのマネジャーや起業を目指す観光ビジネス人材、各地域の自治体や観光業に求められる広報活動・情報発信などの観光メディアに精通した人材、地域の活性化を目指した観光まちづくり人材を育成するための科目を配置する。</li> <li>・「観光ビジネス」、「観光メディア」、「観光まちづくり・観光地経営」におけるさまざま</li> </ul>

<p>まな課題を発見・解決し、観光の新たな価値を創り出す能力を育成するため、4年間で学ぶ観光学の理論と実践の集大成である、ゼミナール教育と各自の研究テーマに即した卒業論文・卒業研究を配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：<a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=666">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=666</a>)</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな言語力とコミュニケーション力を身につけ、異文化を理解し、グローバル社会で活躍することで社会に貢献したい人。</li> <li>・学習意欲を持ち、論理的な思考力、問題解決能力を身につけたい人。</li> <li>・グローバル社会で活躍し、社会に貢献したい人。</li> <li>・多くの人と協働し、観光まちづくりに係わりたい人。</li> <li>・海外留学、海外研修や地域連携などのプログラムに積極的に参加して、新たな視点を持ちたい人。</li> </ul>
<p>学部等名 環境社会学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：<a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=668">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=668</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>環境社会学部は、地球規模の国際的な視野を身につけ、地域社会の活性化、自然共生型社会の設計及び「緑」の活用等に積極的に貢献し、環境に配慮した健康なライフスタイルの普及と持続可能な社会の形成に寄与できる高度専門職業人を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：<a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=668">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=668</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>環境社会学部は、人と自然が調和した豊かで持続可能な社会の構築に貢献する学士を育成することを目的に、当該人材が満たすべき能力を定め、アドミッション・ポリシーに示される資質の学生に対し、カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程を提供する。そして所定の教育課程を修め、以下の能力を身につけた学生に対して学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境および社会に関する幅広い基礎的知識を理解するとともに、その意味を日常生活や歴史的視点と関連付け、実践的に活用する能力</li> <li>・持続可能な社会の形成に向けて課題を認識し、情報を科学的に収集・分析して、社会人として相応しい倫理観と論理的思考に基づき判断および解決方法を構想し、表現・提案・実践する主体的、創造的能力</li> <li>・言語や習慣などの文化的背景が異なる人々とコミュニケーションをとり、多様な価値観を尊重しながら共に生き、協働できる能力。地域社会及び国際社会が直面する特に環境に関わる課題について、実践と社会参加を通じて、専門家として、また市民としての社会的責任を果たす能力</li> <li>・環境および社会に関する知識と技能、倫理観を持続的に高めるために生涯にわたって学習し、自己実現に取り組む能力</li> </ul>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：<a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=668">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=668</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>環境社会学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、次のように学士課程のカリキュラムを編成、実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会・国際社会・産業界に通用する資質と社会人基礎力（学士基盤力）を身につけるため、語学、情報に関する科目を『学科共通科目群』に設置する。語学基礎力とともに、第二外国語の履修により、異文化理解力を向上させるための基礎力とする。加えて留学生には、日本語能力の向上を段階的かつ着実に修得させる。また、情報リテラシーを修得することで、よりよい情報を収集し、分析する能力を身につける。</li> <li>・学生生活を充実させキャリア形成や生涯教育に資する主体的・自律的な学びを実現す</li> </ul>

<p>るためのポートフォリオに関するもの、また専門性を活かした課題解決の実践のための主体的・創造的な能力を身につけるための科目を『キャリア形成科目群』に設置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境と社会に関する幅広い知識を体系的に身につけ、学部の学びの基礎となる科目を『専門基礎科目群』に設置する。今日の地球規模の環境問題についての理解を深め、併せて、環境法、環境政策、環境社会等の環境関連学を統合的視点に立って総合的に学び、「持続可能な社会」形成についての基礎知識を修得するとともに、環境への課題意識を深める。</li> <li>環境と社会に関して学んだ知識を、多様な分野での実践や社会参加に役立てる手法を学ぶ専門的な知識と実践活用技能を身につける『専門科目群』を設置する。</li> </ul> <p>専門基礎科目群、および専門科目群が包括する学びの内容は、以下に示す3つのコアと横断的に関連するビジネス分野から構成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「緑と自然」：都市の緑の保全と創出、並びに生物多様性の保全等の環境保全と地域の関わりを学ぶ。</li> <li>「農業と食」：これからの農業のあり方や新たな価値創造、安全・安心な食の供給について学ぶ。</li> <li>「園芸と健康」：植物による癒しの効果や良好な生活環境の創出について学ぶ。</li> <li>環境ビジネス分野の知識や進路として考えられる業界等で役立つスキルを学ぶことで、自ら体得した知識とスキルを社会に活かすための就業力を高める。</li> </ul> <p>学修アセスメント・プランは、主にキャリア形成教育の中で提示し、ディプロマ・ポリシーが示す能力や学生の成長に伴う達成度を測定、評価する。</p>
---

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：<a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=668">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=668</a>)</p>
<p>(概要) 環境社会学部では、人と自然が調和した持続可能社会の実現に貢献できる人材を育成するため、日本のみならず世界各地から、次の資質を持った学生を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文系・理系にとらわれない広い領域に対する知的好奇心</li> <li>主体的に問題を発見し、その解決に向けて努力できる実行力</li> <li>多様な文化的背景を持つ他者と積極的にコミュニケーションを取ることのできる能力</li> <li>グローバルおよびローカルな視点での環境と社会の関連領域に対する興味・関心</li> <li>地域や企業活動との関わりの中で、課題を進んで解決しようとする積極性</li> </ul> <p>環境社会学部では、世界および地域の環境と社会に関連した問題の解決に積極的に取り組もうとする可能性に満ちた学生を受け入れるため、多様な選抜方法による入学者選抜を実施する。</p>

<p>学部等名 看護学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：<a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=670">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=670</a>)</p>
<p>(概要) 看護学部は、学際的知見に裏付けられた新しい時代の看護を目指し、人の尊厳を守り、人間性豊かで、異文化理解や薬学、福祉に明るい、探究心と倫理性を兼ね備えた看護職者を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：<a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=670">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=670</a>)</p>
<p>(概要) 看護学部は、以下に掲げる能力を有し、かつ所定の単位を修得した学生に、学士(看護学)の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>ライフサイクルのすべての段階にある人の健康時から健康障害のあらゆる場面における看護を実践するための基礎理論が理解できる。</li> </ul> </li> </ol>

- ・人間の尊厳について深い洞察力をもち、人間の権利、患者の権利を尊重して、その人の立場に立ってケアを提供することを理解できる。
- ・看護に活用できる薬学と福祉に関する知識を理解できる。
- ・グローバルな視点から民族的多様性を理解した上で健康や看護の役割を理解できる。保健医療福祉におけるチーム医療の役割と協働について理解できる。
- ・よりよい看護の実現に向けて専門職として研鑽できる。

## 2. 汎用的技術

- ・ライフサイクルのすべての段階にある人の健康時から健康障害のあらゆる場面で提供できる看護技術を修得している。
- ・教養教育の幅広い視野と複眼的な思考力・判断力を活用して、人間の生命、健康、生活についての深い洞察力と専門職としての倫理に基づいて行動することができる。
- ・人々の多様な価値観・信条や生活背景をもつ人を尊重し、人々の尊厳と権利を擁護する行動をとることができる。
- ・医療チームを機能させるためのチーム形成を意識し、リーダーシップやメンバーシップをとることができる。
- ・薬物治療における副作用の発現を早期に発見し、健康の回復促進を図ることができる。国際的な素養を身につけている。
- ・自己の看護実践を振り返り、専門職としての価値観や専門性を発揮することができる。

## 3. 態度・志向性

- ・看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する態度を有している。
- ・教養教育と専門教育、特に薬学および福祉の学際的見識を通して、看護専門職としての価値と専門性を発展させる姿勢を有している。
- ・地域医療に関心をもち、課題解決に向けて考え、地域医療の充実に貢献しようとする。
- ・看護専門職として主体的かつ持続的に生涯にわたり研鑽を積んでいく態度を有している。

## 4. 総合的な学習経験と創造的思考力

- ・自己の専門性を発揮し、ケアの質の向上に向けて探究できる。
- ・自らの専門職者としての価値観を形成することができる。

## 教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=670>)

### (概要)

看護学部では、教育研究上の目的及び学部の目指す人材育成に基づき、国際的視野をもち、基礎教養と薬学及び福祉の見識を兼ね備えた実践能力のある看護職者を育成するために、以下に掲げる方針に則ってカリキュラムを編成する。

- ・グローバル化する社会と臨床現場の IT 化に対応できる基礎力を養うために学科共通科目群 (国際性と情報リテラシーを身につける) をおく。
- ・ケアの対象である“人”への理解を深めるために、自然科学の持つ法則性、人文科学の持つ多様性を学ぶ基礎科目群 (人文、自然科学を学ぶ) をおく。
- ・専門分野を学ぶための基礎力を培うために、医療と福祉・薬学に関係する学問を概括する専門基礎科目群Ⅰ (いのちと福祉を学ぶ)、専門基礎科目群Ⅱ (医学を学ぶ)、専門基礎科目群Ⅲ (薬学を学ぶ) をおく。
- ・看護学の基本と、健康レベル、生活の場の違いによる看護実践の基礎的能力を養うことができるように、専門科目群Ⅰ (基礎看護学分野)、専門科目群Ⅱ (クリニカルケア分野)、専門科目群Ⅲ (母子保健看護学分野)、専門科目群Ⅳ (地域包括ケア分野)、特殊な状況下における看護並びに看護の在り方や看護職者の役割の理解を深めるための科目を専門科目群Ⅴ (看護の統合と実践)、保健師国家試験受験資格取得のための専門科目群Ⅵ (保健師)、助産師国家試験受験資格取得のための専門科目群Ⅶ (助産師)、養護教諭 1 種免許取得のための専門科目群Ⅷ (養護教諭) をおく。

<p>入学者の受入れに関する方針  (公表方法：<a href="https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=670">https://www.jiu.ac.jp/about/information/detail/id=670</a>)</p>
<p>(概要)  基礎学力を身につけていること・・・基礎学力テスト、調査書  柔軟な思考力を身につけていること・・・志望理由書、推薦書、面接  他者とのコミュニケーション能力を身につけていること・・・調査書、志望理由書、活動報告書、各種大会の記録、推薦書、面接  生命を大切にし、人の尊厳を守り、異文化理解を深め、広く国際社会で活躍できる基礎的能力を身につけている人・・・調査書、志望理由書、活動報告書、各種大会の記録、推薦書、面接、基礎学力テスト</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：  <a href="https://www.jiu.ac.jp/files/user/about/information/pdf/soshikizu20190401.pdf">https://www.jiu.ac.jp/files/user/about/information/pdf/soshikizu20190401.pdf</a></p>
---

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
経営情報学部	—	15人	7人	0人	1人	0人	23人
国際人文学部	—	15人	11人	0人	4人	0人	30人
福祉総合学部	—	13人	9人	0人	17人	1人	40人
薬学部	—	18人	14人	0人	6人	3人	41人
メディア学部	—	12人	11人	0人	5人	0人	28人
観光学部	—	8人	4人	0人	3人	0人	15人
環境社会学部	—	5人	5人	0人	2人	0人	12人
看護学部	—	14人	7人	0人	9人	6人	36人
大学院	—	10人	3人	0人	1人	0人	14人
語学教育センター	—	3人	4人	0人	11人	0人	18人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		239人					239人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： <a href="http://www5.jiu.ac.jp/profiles/index.html">http://www5.jiu.ac.jp/profiles/index.html</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
経営情報	400人	438人	109.5%	1640人	1418人	86.5%	20人	17人
国際人文	200人	245人	122.5%	820人	776人	94.6%	10人	12人
福祉総合	220人	154人	70.0%	890人	571人	64.2%	5人	1人
薬	130人	101人	77.7%	780人	728人	93.3%	0人	2人
メディア	360人	354人	98.3%	1300人	1391人	100.1%	20人	11人
観光	100人	85人	85.0%	400人	301人	75.3%	0人	6人
環境社会	0人	0人	0%	180人	135人	75.0%	0人	0人
看護	100人	108人	108.0%	400人	444人	111.0%	0人	0人
合計	1510人	1485人	98.3%	6410人	5764人	89.9%	55人	49人
(備考) 環境社会学部は平成31年度より募集停止								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
経営情報	321人 (100%)	25人 (7.8%)	222人 (69.2%)	74人 (23.1%)
国際人文	147人 (100%)	12人 (8.2%)	80人 (54.4%)	55人 (37.4%)
福祉総合	96人 (100%)	2人 (2.1%)	78人 (81.3%)	16人 (16.7%)
薬	63人 (100%)	0人 (0.0%)	53人 (84.1%)	10人 (15.9%)
メディア	355人 (100%)	8人 (2.3%)	264人 (74.4%)	83人 (23.4%)
観光	80人 (100%)	2人 (2.5%)	44人 (55.0%)	34人 (42.5%)
環境社会	61人 (100%)	4人 (6.6%)	29人 (47.5%)	28人 (45.9%)
看護	118人 (100%)	2人 (1.7%)	113人 (95.8%)	3人 (2.5%)
合計	1241人 (100%)	55人 (4.4%)	883人 (71.2%)	303人 (24.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
学生便覧に各学部の設置科目を掲載し、カリキュラムツリーを Web 上で公開し、授業科目の順次制・連続性の可視化に努めている。授業の方法についてはシラバスに記載し、また、年間の授業計画が分かるよう行事予定表（学年暦）を作成し公開している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
シラバスに各科目の到達目標を示し、一部の科目ではルーブリック評価を取り入れるなど学修成果の可視化を行っている。卒業認定については、本学学則第 26 条および本学学位規程に定めている。また、各学部でディプロマ・ポリシー（DP）を定め、公開している。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
経営情報学部	総合経営学科	124 単位	有・無	単位
国際人文学部	国際文化学科	126 単位	有・無	単位
	国際交流学科	126 単位	有・無	単位
福祉総合学部	福祉総合学科	124 単位	有・無	単位
	理学療法学科	124 単位	有・無	単位
薬学部	医療薬学科	190 単位	有・無	単位
メディア学部	メディア情報学科	126 単位	有・無	単位
観光学部	観光学科	124 単位	有・無	単位
環境社会学部	環境社会学科	124 単位	有・無	単位
看護学部	看護学科	126 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： <a href="https://www.jiu.ac.jp/access/">https://www.jiu.ac.jp/access/</a> <a href="https://www.jiu.ac.jp/files/user/visitors/pdf/binran2019-5.pdf">https://www.jiu.ac.jp/files/user/visitors/pdf/binran2019-5.pdf</a>
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

初年度納付金

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
経営情報	総合経営	770,000 円	300,000 円	240,000 円	施設設備費
国際人文	国際文化 国際交流				
福祉総合	福祉総合 理学療法	900,000 円	300,000 円	450,000 円	施設設備・実習費
薬	医療薬学	1,430,000 円	400,000 円	186,000 円	施設設備費
メディア	メディア情報 (映像芸術)	770,000 円	300,000 円	340,000 円	施設設備費
	メディア情報 (映像芸術以外)			240,000 円	施設設備費
観光	観光				
看護	看護	1,000,000 円	300,000 円	550,000 円	施設設備・実習費

初年度以降納付金

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
経営情報	総合経営	770,000 円		300,000 円	施設設備費
国際人文	国際文化 国際交流				
福祉総合	福祉総合 理学療法	900,000 円		650,000 円	施設設備・実習費
薬	医療薬学	1,430,000 円		666,000 円	施設設備費
メディア 2018 年入学 生まで	メディア情報	770,000 円		300,000 円	施設設備費
メディア 2019 年度 入学生以降	メディア情報 (映像芸術)	770,000 円		400,000 円	施設設備費
	メディア情報 (映像芸術以外)			300,000 円	施設設備費
観光	観光				
環境社会	環境社会	770,000 円		300,000 円	施設設備費
看護	看護	1,000,000 円		550,000 円	施設設備・実習費



⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>大学独自の給付型奨学制度として、入学試験の成績により選考を行う制度、入学後の学業への取り組みにより選考を行う制度、入学後の家計の急変等に対応した制度、地域人材・社会人の学び直しを支援する制度を整備している。貸与型奨学生としては、家計の急変に対応する制度を父母後援会・同窓会の支援を得て整備している。また、地域人材育成のための貸与型制度として看護学部の病院・自治体による制度、介護福祉士貸付制度などの紹介を行っている。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 就職課員（国家資格のキャリアコンサルティング有資格者含む）が、就職部長、学科を代表する就職委員と連携し、キャリア形成支援（就職適性検査や業界研究指導）や就職活動支援（エントリーシート添削や面接指導など）を実施（個別相談にも対応）</li> <li>2. 3年生を対象に「就職ガイダンス」、紀尾井町キャンパスでは2～4年生を対象に「就活ガイダンス」を開催し、就職活動準備を支援。また留学生を対象とした「留学生ガイダンス」も別途開催。さらに定期的に医療系学科では独自に「就職セミナー」を開催。</li> <li>3. 「学内合同業界研究・企業説明会」を定期的に開催（毎月数社を招き、業界研究や企業研究、個別面談を実施）</li> <li>4. 毎年1月に「企業研究会」開催（3年生・2年生対象で、毎年100社以上の企業参加） また、薬学部、福祉総合学科、理学療法学科では医療機関や福祉施設等を学科ごとに学内に招き、独自の業界研究会や就職説明会を実施している。</li> <li>5. 3年生を対象に就職適性検査を実施。その結果のフォロー講座を開催し就職活動前の自己分析を支援。</li> <li>6. 就職活動を支援するための各種講座 （就活身だしなみ講座、就職力アップ講座、労働法セミナー、SPI対策講座など）</li> <li>7. 基礎から業界別までの資格対策講座の開講（TOEIC<sup>®</sup>、色彩検定、簿記検定、国内旅行業務取扱管理者、ファイナンシャルプランナー3級、公務員講座）</li> </ol>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康サポート <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学生に対し、年に1回健康診断を実施。</li> <li>・異常所見者には、再検査を指示し、結果をフォローしている。</li> <li>・新生全員に、心電図検査も実施している。</li> <li>・通学中や学内での怪我に対し、応急処置を行い、必要時には病院搬送、付き添いを実施。</li> <li>・大学近隣の医療機関受診先の相談に対応。</li> </ul> </li> <li>2. 感染症対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新生のみならず、全学生対象に年1回の健康診断時に胸部レントゲン検査を実施。</li> <li>・入学時に母子手帳のコピーの提出してもらい、過去のワクチン接種履歴を把握している。</li> <li>・外部実習対象者には、入学後の抗体価検査を基に追加ワクチンを指示している。</li> <li>・昨年度より、学内にてB型肝炎ワクチン予防接種を大学負担にて実施している。</li> <li>・感染症流行時には掲示等で注意喚起を促している。</li> </ul> </li> <li>3. 心のケア <ul style="list-style-type: none"> <li>・各キャンパスの学生相談室にて、カウンセラーによる学生相談が受けられる体制がある。</li> <li>・本年度より、精神科医と連携し、面談をできる機会を設けている。</li> <li>・今後、学生相談室の開設日を増やすことを検討している。</li> </ul> </li> </ol>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：<a href="https://www.jiu.ac.jp/education/books/">https://www.jiu.ac.jp/education/books/</a></p>
---